

## 研究概要の一般公開

### 研究課題名

頭頸部非扁平上皮がんに対する陽子線治療の多施設共同後向き観察研究

### 研究の背景および目的

頭頸部がんは、口腔および口唇、鼻副鼻腔、唾液腺、甲状腺、上咽頭、中咽頭、下咽頭、そして喉頭と 8 つに細分類されていて、その進行度や組織型によっても、症状および予後が大きく異なります。頭頸部がんの大半は扁平上皮がんで、外科切除または化学放射線療法が標準治療となっています。

一方、悪性黒色腫や腺様嚢胞がんなどの非扁平上皮がんは、その発生部位や進展様式、化学療法や放射線治療などに対する反応性も扁平上皮がんとは異なり、必ずしも標準治療が確立しているとは言えません。これらの疾患は鼻・副鼻腔や頭蓋底近傍への浸潤など、根治切除が難しい、または手術による機能欠損や整容性に大きく影響する 경우가少なくありません。そのため放射線治療などで治療されることも多いのですが、視神経や脳幹などのリスク臓器が近接するため、X線による放射線治療では高線量照射が出来ない、または重篤な有害事象の発生が避けられない場合も少なくありません。そのため、重粒子線治療や陽子線治療などの粒子線治療の良い適応とされてきました。

本研究では、本邦で施行された陽子線治療装置を用いた 20 歳以上の頭頸部がんのうち非扁平上皮癌の代表的な疾患である悪性黒色腫、嗅神経芽細胞腫および腺様嚢胞がんに対する治療において、その安全性と治療効果を遡及的に観察し、評価を目指します。

### 研究の対象

本研究の対象となるのは、2003年11月から2013年3月までの間に国立がん研究センター東病院および本研究に参加する多施設にて頸部非扁平上皮がん（悪性黒色腫・嗅神経芽細胞腫・腺様嚢胞がん）に対して陽子線治療を施行した20歳以上の患者さんです。

### 利用する情報

対象患者さんに対して、診療録の情報をを用いて以下の項目を調査します。  
生年月、性別、疾患の特徴、陽子線治療を選択した理由、他治療を選択し得たか否か、照射情報（陽子線治療開始日、陽子線治療終了日、標的の大きさ、腫

瘍への線量、リスク臓器への線量、併用療法など)、治療開始時の全身状態、急性期有害事象と重症度、晩期有害事象と重症度、最終生存/死亡確認日、再発の有無、二次発がんの有無、X線治療との比較可能性

#### 研究実施組織

陽子線治療先進医療後ろ向き試験 WG グループ

(代表：北海道大学大学院医学研究科 放射線医学分野 教授 白土博樹)

#### 研究責任者

国立がん研究センター東病院 放射線治療科 秋元哲夫

#### 施設内研究責任者

国立がん研究センター東病院 放射線治療科 秋元哲夫

#### 個人情報への取扱い方法

この研究では個人情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。研究結果の発表に際しても、個人が特定されることはありません。

国立がん研究センター東病院で治療され、この研究の対象となりうる方で、研究に診療録の情報を使わないでほしいというご希望があれば下記連絡先へご連絡ください。

国立がん研究センター東病院 放射線治療科 中村直樹

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先  
千葉県柏市柏の葉 6-5-1  
TEL 04-7133-1111